

新潟県植物分布資料 (10)

石沢 進・朱 雁

[略号] IS:石沢の写真、IS後の数字は写真番号で新津資料室に保管、Photo:写真資料でPhoto後の数字は写真ネガ番号あるいはデジカメ撮影番号、[8桁の数字]:地形図座標(環境省3次メッシュマップ)

新潟県分布追加記録

ウラジロ [県準絶滅危惧種 (NT)] *Gleichenia japonica* Spr.
ウラジロ科

南魚沼市の旧大和町に記録があるが、隣接する小出地域にも分布が確認できたので記録する(写真1)。

魚沼市(小出) 干溝(水頭:大沢川) 140m:

IS-Photo PA101023-78・79[小千谷 5538-67-38]



写真1 ウラジロ

魚沼市(小出) 干溝(水頭:大沢川) 140m(2010 10/23)

ミズワラビ [県絶滅危惧種] *Ceratopteris thalictroides* (L.) Brongn.

ホウライシダ科

ミズワラビの新津丘陵における分布については、前項の分布上顕著な新津の植物(9)に記録した。新潟県内の他地域で2010年に確認した産地を以下に追加する。

村上市(荒川) 春木山 15m: IS-Photo PA101108-9~11[中条 5739-13-37]

新発田市松岡 50m: IS-Photo PA101026-110~113[新発田 5639-62-67]

三島郡出雲崎町立石(諏訪神社南水田) 10m: IS-Photo PA101214-42・43[出雲崎 5638-25-36]

魚沼市(堀之内) 大石(月岡公園) 120m: IS-Photo PA101023-124~127[小千谷 5538-67-74]; 魚沼市(堀之内) 和田 100m: IS-Photo 101023-153・154・157[小千谷 5538-67-83]

村上市荒川の産地は、新潟県での最北であり、北緯38°線以北に位置する。ミズワラビの太平洋側新北限産地の報告(薄葉2010)の中に、山形県南陽市に分布し(発見は沢和浩氏)、日本における最北の分布であると指摘しているが、荒川の産地もほぼ同緯度である。ただし、生育個体は1株であり(写真2)、周辺付近を若干捜したが発見出来なかった。県北部では新発田市松岡での分布を確認した(写真3)。また、新潟県における本種の分布は、新潟平野や高田平野など海拔の低い平野部に限られ、長岡市の小国が内陸の産地であるが、魚沼市の産地は、それよりも奥で新潟県でも最も内陸での生育である(写真4)。本種が新潟県で分布を拡大しているか、もともと分布していたのに気付かずにいるか明らかでないが、新たな分布地点が追加されるであろう。



写真2 ミズワラビ

村上市(荒川) 春木山 15m
(2010 11/8)

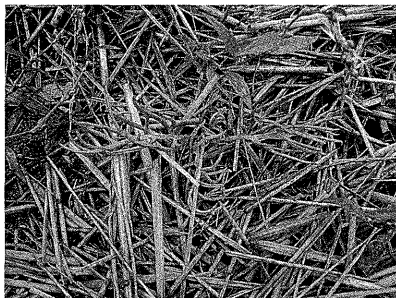


写真3 ミズワラビ

新発田市松岡 50m
(2010 10/26)



写真4 ミズワラビ

魚沼市(堀之内) 大月 120m
(2010 10/23)

ホラシノブ [県絶滅危惧種Ⅱ類(VU)] *Sphenomeris chinensis* (L.)Maxon
 村上市、柏崎市、小千谷市、上越市、佐渡市などに分布している(牧野 2000)。
 新たに次の産地を追加する(写真5)。
 三島郡出雲崎町乙茂 60m: IS-Photo PA100720-11~13 [出雲崎 5638-25-78]

ホングウシダ科



写真5 ホラシノブ
 三島郡出雲崎町乙茂 60m(2010 7/20)

シャクチリソバ *Fagopyrum dibotrys* (D. Don)H. Hara
 道路わき路肩を補強した工事に伴って生育しているとみられ、人為的な導入至ったものと推定される(写真6・7)。
 村上市朝日上野(寺) 30m: IS-Photo PA100717-92~96 [塩野町 5739-34-31]

タデ科



写真6 シャクチリソバ
 村上市朝日上野(寺) 30m
 (2010 7/17)



写真7 シャクチリソバ
 村上市朝日上野(寺) 30m
 (2010 7/17)

マルバウマノスズクサ [国絶滅危惧ⅠB類(EN)] *Aristolochia contorta* Bunge
 ウマノスズクサ科
 本種の県内における分布は、岩船郡旧朝日村、北蒲原郡旧加治川村、佐渡市などに記録があり、朝日村の産地は、開墾で畑に改変されて絶滅し、その他の産地での生育が確認されていない。今回発見の新発田市でも農道の脇で、除草剤の散布で開花できない状況であり(写真8)、絶滅が心配される。
 新発田市宮古木 40m: IS-Photo PA100611-53 [新発田 5639-63-71]



写真8 マルバウマノスズクサ
 新発田市宮古木 40m
 (2010 6/11)

アズマツメクサ [国準絶滅危惧(NT)] *Tillaea aquatica* L.

ベンケイソウ科

新潟県における本種の分布は、古くは池上義信先生の遺稿の中に村松浜の記録があり、2010年にその遺稿を発刊した(池上 2010)。その他近年、人間環境大学の藤井伸二氏が新潟市西蒲区赤鑑で発見してその状況確認を依頼されて現地調査し、本年も多数の個体がみられた(写真9-12)。なお県内の詳しい情報は藤井他(2010)により報告されている。

新潟市西蒲区巻赤鑑 6m: IS-Photo PA100623-1~8[弥彦 5638-47-91]



写真9 アズマツメクサ
ミズドクサと共存 (2010 6/23)

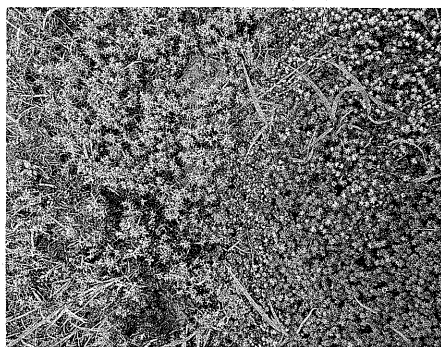


写真10 アズマツメクサ
苔類と共存 (2010 6/23)



写真11 アズマツメクサ

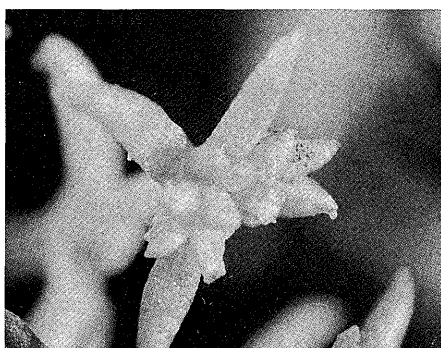


写真12 アズマツメクサ (開花)

写真9-12: 新潟市西蒲区巻赤鑑 6m(2010 6/23)

ミヤマフユイチゴ [県地域個体群(LP)] *Rubus hakonensis* Franch. et Sav.

バラ科

海岸に近い山地に生えているが、内陸に深く入り込んだところでは珍しい。阿賀野川沿いでは阿賀町鹿瀬まで見られた(写真13)。

東蒲原郡阿賀町向鹿瀬 鹿島神社境内 80m: IS-Photo-PA100609-43・44・49・50・85 [津川 5639-43-50]

テリハタチツボスミレ *Viola faurieana* W. Becker

スミレ科

佐渡市両津に分布を確認する(写真14)

佐渡市(両津)和木<金剛山道>900-1000m: IS-Photo PA100727-19・44[小田①] 5738-23-13]



写真13 ミヤマフユイチゴ
東蒲原郡阿賀町向鹿瀬 鹿島神社境内 80m
(2010 6/9)



写真14 テリハタチツボスミレ
佐渡市(両津)和木<金剛山道>900-1000m
(2010 7/27)

ツルタチツボスミレ [県地域個体群(LP)] *Viola grypoceras* A. Gray var. *rhizomata* (Nakai) Ohwi スミレ科
 佐渡市(両津) 和木<金剛山道>900-1000m: IS-Photo PA100727-35・38 [(小田①) 5738-23-13] (写真15・16)
 両津 [佐渡島 新記録] (詳細は渡辺洋子氏の記録17頁を参照)



写真15 ツルタチツボスミレ
 佐渡市(両津) 和木<金剛山道>900-1000m
 (2010 7/27)



写真16 ツルタチツボスミレ
 佐渡市(両津) 和木<金剛山道>900-1000m
 (2010 7/27)

テングノコヅチ [国準絶滅危惧(NT)] *Tripterospermum japonicum* (Siebold et Zucc.) Maxim. リンドウ科
 var. *invokubile* (N. Yonez.) J. Murata
 佐渡市(両津) 和木<金剛山道>900-1000m: IS-Photo PA100727-35・38 [(小田①) 5738-23-13] (写真17・18)
 両津 [佐渡島 新記録] (詳細は渡辺洋子氏の記録を参照)

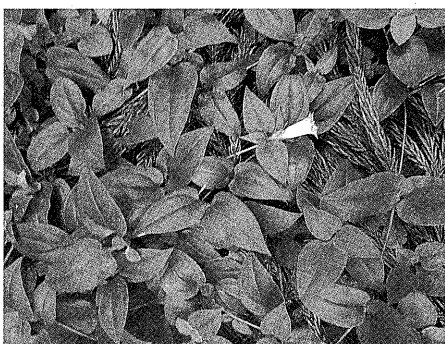


写真17 テングノコヅチ
 佐渡市(両津) 和木<金剛山道>900-1000m
 (2010 7/27)



写真18 テングノコヅチ
 佐渡市(両津) 和木<金剛山道>900-1000m
 (2010 7/27)

マルバノサウトウガラシ [国絶滅危惧 I B類(EN), 県絶滅危惧 I 類(EN)] ゴマノハグサ科
Deinostema adenocaulum (Maxim.) Yamazaki
 新発田市松岡 50m: IS-Photo PA100917-69~72 [新発田5639-62-67]; 新発田市宮古木 40m: IS-Photo PA101026-73・74・82・83 [新発田5639-63-71] (写真19・20)
 魚沼市(堀之内) 和田 100m: IS-Photo 101023-153・154 [小千谷 5538-67-83]; 魚沼市(小出) 干溝(水頭:大沢川) 140m: IS-Photo PA101023-36~43 [小千谷 5538-67-38]



写真19 マルバノサウトウガラシ
 魚沼市(堀之内) 和田 100m (2010 10/23)

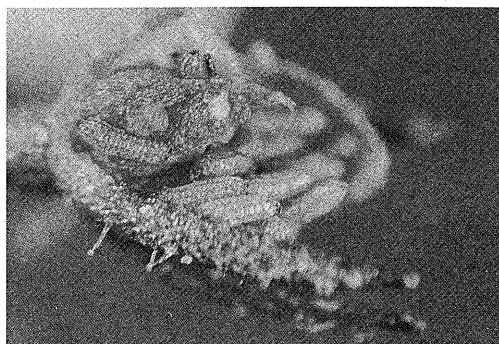


写真20 マルバノサウトウガラシ(裂開する果実)
 魚沼市(堀之内) 和田 100m (2010 10/23)

ミズオオバコ [国絶滅危惧Ⅱ類(VU), 県準絶滅危惧(NT)] *Ottelia japonica* Miq. トチカガミ科
 新発田市五十公野 栢湯 10m: IS-Photo 101015-34・101016-2・Photo 3800-1・42(2010.10.15) [新発田 5639-72-28] (写真21~25)
 魚沼市(堀之内) 和田 100m: IS-Photo 101023-162・163・165・166[小千谷 5538-67-83]



写真21 ミズオオバコ

新発田市五十公野 栢湯 10m (2010 10/15)



写真22 ミズオオバコ(花)

新発田市五十公野 栢湯 10m(2010 10/15)

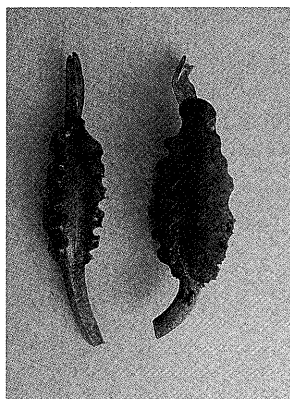


写真23 ミズオオバコ(果実)
新発田市五十公野 栢湯 10m
(2010 10/15)

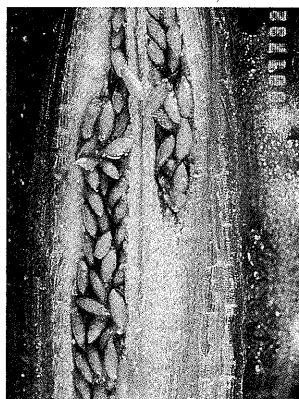


写真24 ミズオオバコ(裂開する果実)
新発田市五十公野 栢湯 10m
(2010 10/15)

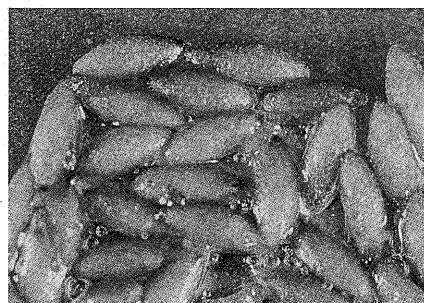


写真25 ミズオオバコ(種子)
新発田市五十公野 栢湯 10m
(2010 10/15)

マイヅルテンナンショウ [国絶滅危惧Ⅱ類(VU)] *Arisaema heterophyllum* Blume サトイモ科
 新潟県では、これまで上越市の分布が知られている。今回追加の産地は、県北部の新発田市に位置することから、国内でも北の生育地にあたる。生育地では、個体数も少なく農道に近く林縁であり、消失の可能性が高く心配である(写真26)。

新発田市宮古木 40m: IS-Photo-PA100611-30~35 [新発田 5639-63-71]



写真26-1~3 マイヅルテンナンショウ 新発田市宮古木 40m (2010 6/11)

クゲヌマラン [国絶滅危惧IA類(CR)] *Cephalanthera erecta* (Thunb.)Blume var. *shigo* Ohwi ラン科

本種の分布については、元新潟大学教育学部教授古谷 正教授が発見し、大学図書館職員星 和夫氏が大切に保護に心がけており、例年5月ころ見事に開花しているとの連絡をいただき(新潟大学職員長谷川和子氏から)、現地を訪れて確認した。図書館の改築により自生地からの移転が必要とのこと、生育地の近況ここに記録する(写真27)。

ギンランに近いが、草丈が高く、葉数が多くて花が大きく、唇弁の距が明らかに突出しないことなどから区別されている。

新潟市西区五十嵐新潟大学構内 20m: IS-Photo-PA100512-1~5 [内野 5838-67-35]

新潟市市西区五十嵐
新潟大学構内 20m
(2010 5/12)



写真27-1 クゲヌマラン(群生)

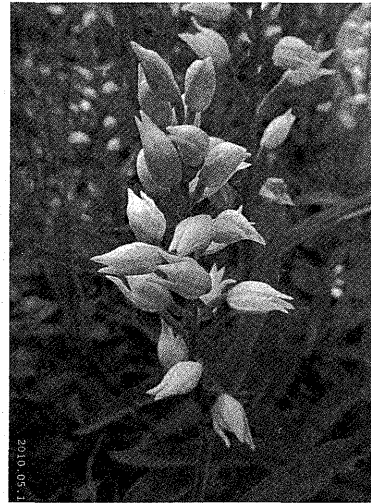


写真27-2 クゲヌマラン(開花)

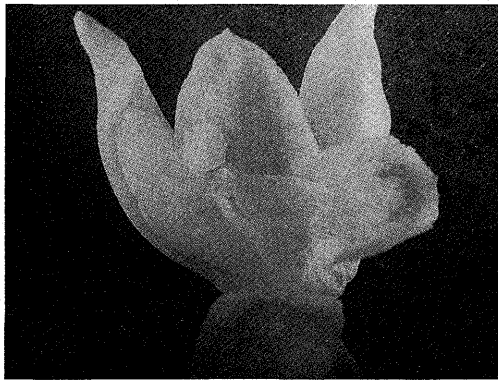


写真27-3 クゲヌマラン(花)

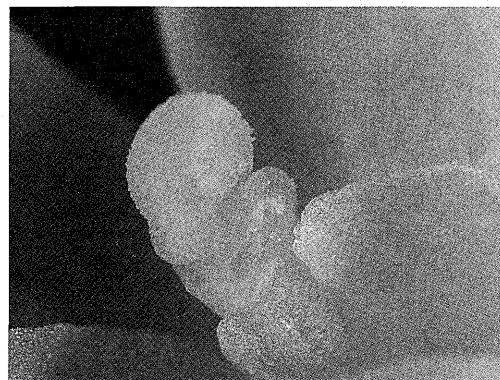


写真27-4 クゲヌマラン(蕊柱)

本稿のまとめにあたり、佐渡では、中川清太郎・渡辺洋子・植田正司の各氏に、また魚沼市では、富永 弘氏に同行いただき、調査を行ってきたので、謝意を表す。

[文献]

藤井伸二・五百川 裕・石澤 進(2010) アズマツメクサ(ベンケイソウ科)を新潟県から記録する。

水草研究 94: 41-43.

池上義信(2010) 新潟県植物誌(遺稿) じねんじょ 特別報告第2号: 124頁 植物同好じねんじょ会

沢 和浩(2002) '02今年の水草調査から。ふろら山形 58:10-13.(薄葉 2010から引用)

薄葉 満(2010) ミズワラビの太平洋側新北限産地。植物研究雑誌 85(3):187-189.